

里山のむしたち

根来 尚

「里山」と呼ばれる地域は、昆虫の種類のたいへん豊富な場所です。そこは、平地から丘陵地・山地への入り口にあたるため、耕作地・広場・草原・人家・雑木林・竹林・杉林・それらの林の林縁部・池沼・小川などと、多様な環境があるからです。

1. 里山のチョウ類

まず、最もよく目につく昆虫である、チョウ類を紹介しましょう。

富山県で記録のある126種類のチョウのうち、里山の地域全体には、90種類のチョウがいます。チョウの分布に詳しい大野豊さんによって調査された射水丘陵から山田にいたる地域からは64種が記録されています。

里山地域では、草原性のチョウと森林性のチョウが共に多く見られることが特徴ですが、山田のような山間部では森林性のチョウが多く、三熊のような平地に近い耕作地の多い所では草原性のチョウが多くなります。

里山は多様な環境に恵まれています、大まかな環境別にそこで多く見られるチョウを紹介していきます。

◆人家の近くや農地で見られる草原性のチョウ

人家の周辺や耕作地・芝生のある公園では、イチモンジセセリ、モンキアゲハ、キアゲハ、キチョウ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、ヒメアカタテハなどが多く見られます。これらは平地でも普通に見られるチョウです。

チョウの幼虫は、植物を食べて成長しますが、種類によって食べる植物（食草）が決まっています。何を食べるのかが分かると、あるチョウがなぜその場所にいるのかが分かります。

例えば、イチモンジセセリは、イネ科を食草としているので、田んぼのイネの害虫でもあります。キアゲハは、ニンジンやパセリなどセリ科の植物を食草とするおなじみのチョウです。

モンシロチョウは、アブラナ科の植物を食草としキャベツの害虫として有名ですし、モンキチョウ、ツバメシジミは、マメ科の植物を食草としシロツメクサなどについています。

ヤマトシジミは、カタバミを食草とする道ばたに多く見られるチョウです。

これらのチョウがなぜ民家のまわりや、耕作地、公園などで多いかが分かりますね。

◆雑木林と関係の深い森林性のチョウ

雑木林に生える樹木や草を食べて生長するチョウは、「里山地域」を特徴づけるチョウといえます。

雑木林の脇や中を巡る山道では、春まだ林床の明るい時にはギフチョウやウスバシロチョウが多く、梅雨の頃にはミドリシジミ類（アカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、エゾミドリシジミ）が現われます。夏には、雑木林に囲まれた明るい広場のようなところでは、モンキアゲハ、カラスアゲハのような大型のアゲハチョウ類の他、ヒョウモンチョウ類（オオウラギンスジヒョウモン、ミドリヒョウモン、クモガタヒョウモン等）などが多く見られます。夏、林床の暗い部分には、ジャノメチョウ類（ヒメウラナミジャノメ、クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲ等）が多くいます。

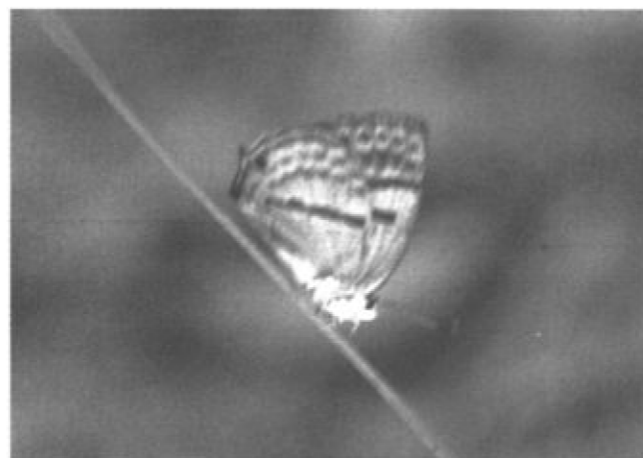


図1. ミズイロオナガシジミ



図2. ウスバシロチョウ



図3. クモガタヒョウモン

雑木林を代表するチョウには、個体数が少なく観察の難しいチョウもありますが、観察の参考に簡単に紹介しておきましょう。

「春の女神」として有名なギフチョウは丘陵地の春を代表するチョウです。幼虫はカンアオイの仲間の葉を食べ、成虫は春早く4月に出てきます。富山県では丘陵地に広く見られますが、全国的に見ると減少の著しいチョウです。ウスバシロチョウは、ムラサキケマンを食草とし、春5月に見られます。どちらのチョウも里山の雑木林の一年のサイクルによく適応し、林床の明るい春にのみ現われるチョウです。



図4. ギフチョウ

モンキアゲハは、林縁部に生えるカラスザンショウを食草とし、後パネに一對の白紋のあるたいへん大きな黒いアゲハチョウです。林縁部を飛んでいる姿をよく見ることが出来ます。

ミヤマセセリは、コナラやミズナラを食樹とします。春5月に見られます。アカシジミ、ミズイロオナガシジミも、コナラを食草とする小さな愛らしいチョウで、6月に夕方コナラの木の梢を飛び回ります。これらのチョウは、個体数が多くないことや飛び回る時間帯の関係で、目につくチョウではありませんが雑木林のチョウ



図5. ミヤマセセリ

ウを代表するものです。

ミドリヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、クモガタヒョウモン等のヒョウモンチョウ類は、スミレ類を食草とし、夏から秋に多くの花に訪花しますが、盛夏には見られることが少なくなり、夏眠するものと考えられています。

コミスジは、クズ・フジなどのマメ科を食草とし、サカハチチョウはアカソ類を食草とし、林道沿いによく見られます。

クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲは、タケ・ササ類を食草とし、日中は林内にいて夕方活動します。里山に多い杉の植林地は、林の中が全体的に暗いため、チョウ類は少ししかいません。

◆まれなチョウ

県内ではまれなちょうが見られるのも里山地域の特徴です。これには、ミヤマチャバネセセリ、ホソバセセリ、オオムラサキがあげられます。

一方、ツマグロヒョウモンは、最近になってよく見られるようになりました。以前は富山では南方からごくまれに飛来する迷チョウとされていました。しかし、1998年以降急速な北上が見られ、今では富山県でも定着したものと考えられています。幼虫はスミレ類を食べ、庭等に植えられているパンジーを食べていることが多いようです。射水丘陵でも夏から秋には多く見られます。

これらのチョウの顔ぶれから考えると、射水丘陵から山田にいたる地域は、耕作地など人手がよく加えられる環境がある一方で、自然の状態の森も多く残されていることが分かります。里山はチョウ類の棲息にとって、良い環境といえるでしょう。

2. 花に来る虫たち

チョウ成虫のエサは、花の蜜です。いろんな花に来

て花の蜜を吸っているのが観察できます。チョウが花にとまって蜜を吸っている様子は、たいへんよく目立つので、花を訪れる主な昆虫はチョウのように思いこみがちです。ところが、調べてみるとそうではないようです。花を観察しているとチョウ以外の昆虫もたくさんやってきます。

実際に花に来る虫を数えてみたところ、その多くはハチの仲間でした。その中でもミツバチとその仲間であるハナバチ類が多く来ます。ハナバチたちは、成虫・幼虫ともに花の蜜と花粉とをエサとしていますので、花とは切っても切れない仲となっています。

ハチの仲間には次いで多いのは、ハエの仲間、その中でもハナアブ類が多く来ます。

丘陵地で一年間、花に来る虫の個体数を数えてみると、ハチの仲間が50%程度（ハナバチ類が30%ほど）、ハエの仲間が30%程度（ハナアブ類が20%ほど）で、カミキリムシやコガネムシなどの甲虫類とチョウ・ガの類が次いで多く、それぞれ5~10%程度です。平地に近い場所ではチョウ・ガ類が甲虫類より多く、山地に近い場所では甲虫が多くなります。カメムシの仲間やキリギリスの仲間も、少ないながらも花に来ます。結構いろんな昆虫が花に来るものですね。

花を訪れる昆虫の目的は、花蜜を吸うことと花粉を食べることですが、このほかにも、花びらを食べる、雄が同種の雌の来るのを待っている、たまたま休んでいるだけ、花に来る虫を捕まえてエサにするなどさまざまです。

花に来るこれらの虫たちの多くは、花粉を運び種子を实らせるのに役立っています。中でも特に役立っているのが、ミツバチとその仲間のハナバチ類です。



図6.トラマルハナバチ



図7.ナミハナアブ



図8.ミドリカミキリ

3. 里山のトンボ類

富山県のトンボについては、二橋亮（りょう）氏はじめ、何人の方が精力的に調査され、2007年現在で86種が記録されています。射水丘陵から山田地区にかけてのトンボについては64種、富山県に棲息の確認されているトンボの8割もの種が確認されています。

◆トンボがたくさんいる射水丘陵

射水丘陵に多数のトンボがみられるのは、大小の池や湿地、川や田んぼへの水路など多様な水辺環境があるからです。

小川で特徴的なトンボは、まずハグロトンボがあげられます。真っ黒な羽根でひらひらとゆっくり飛ぶ様子は独特です。昔はたくさんいたものですが農薬の使用や小川のコンクリート化で一時期ほとんど見られなくなっていました。最近になって各地で少しずつ増えてきています。

キイロサナエは、河川の中流域にすむトンボで、富山県内では現在射水丘陵のごく一部でみられるだけで



図9. ハッチョウトンボ



図11. アオヤンマ

他の地域では見つかっていない珍しいトンボです。

射水丘陵には、アシなどの水生植物の多く生える池や湿地にすむアオヤンマ、トラフトンボ、チョウトンボなどが、他の地域に比べ多く見られます。また、日本で一番小さいトンボ、ハッチョウトンボやモートンイトンボ、ヒメアカネのような湿地性のトンボも、まだ比較的多くみられます。

◆山田のトンボ

一方山の多い山田では、溪流にすむトンボであるミヤマカワトンボ、ムカシトンボ、ミルンヤンマ、ダビドサナエや、河川の中流域にすむコオニヤンマ、コシボソヤンマ、ヤマサナエが多くみられます。これらは流れのある川にすむトンボ類です。一方、セスジイトンボ、アオモンイトンボ、アオヤンマ、トラフトンボ、マイコアカネといった、平地の水生植物の豊富な池に棲む種は、山田地区では見られません。このことは、急流の河川と水がきれいで温度の低い貧栄養の池が山田の主要な水環境であることを反映しています。



図10. コオニヤンマ

4. その他の水生昆虫類

射水丘陵の止水域（池沼・休耕田・水田脇の水路）で、甲虫類・半翅類を中心に、山口英夫さんが水生昆虫類を調べたところ、半翅目10種、甲虫目14種、トンボ目4種の計28種が見つかりました。その中には、ハネナシアメンボ、ヒメミズカマキリ、ルイスツブゲンゴロウ、ヒメガムシといった稀少な種が含まれていました。その他、コマツモムシ、ジュンサイハムシも富山県内ではあまり見つかっていなかった種もみつっています。



図12. ハグロトンボ

くわしく知りたい方は

射水丘陵や山田地区の里山の昆虫についてくわしく知りたい方は、「里山（富山県中央部）の自然環境調査報告書Ⅰ 環境・動物・植物編」中の〈昆虫〉部分を参照してください。